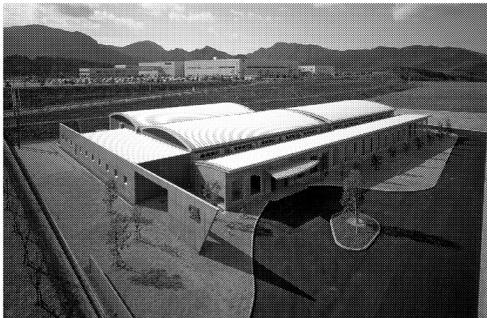


世界一の機能部品供給基地を目指す 大分北部中核工業団地

入居企業の紹介



キャム九州工場



協和製作所大分工場

自動車部品の増産視野

キャムは精密エンジン・ポンプ・スチックス金型、成形品の製造・販売を手がける。北部九州に立地する精密機器、自動車関連産業の集積に対応して、06年2月に立地し九州工場を操業した。同工場の従業員は34人。数年前から自動車関連の機能部品増産に向けて準備を進めてきた。今後北部九州で完成車メーカーの生産拡大が見込めることから、同工場敷地内の増産体制を検討している。

こうした計画は九州にヒュンダイ・スズキがあり、豊後高田市、大分北部中核工業団地立地企業連絡協議会などから支援を受ける好環境が背景にある。これを追い風に九州での事業に弾みをつける。

九州の拠点強化

協和製作所は自動車のトランスミッション用シャフトや事務機器の現像用マクローラーなど超精密金属部品の加工を手がける。大分キャンマテリアルは支柱事業所の操業開始に対応して、00年5月に大分工場を稼働させた。同工場の従業員数は約20人。進出して14年が経過した。大分県は産業振興に力を入れており、大分県産業創造機構(大分市)や大分県自動車関連企業会(同)、大分県立工科短期大学(中津市)、豊後高田市を充実した支援環境がある。まさにモノづくりのモデル工場がここにある。現在全社挙げて従業員のスキルアップなど人材育成、積極的な営業活動に取り組んでいる。九州の拠点強化をさらに進めることが、地域社会の貢献につながることを目指している。



山宗大分工場 (完成イメージ)

4月に新工場稼働

山宗はプラスチック原料や製品の卸販売、生産を手がける。事務機器や自動車関連産業が集積する九州で事業拡大を図るため、13年7月に大分工場を建設。4月5日、1300㎡の射出成形機5台を導入し、従業員20人体制で4月の操業開始を目指している。

すでに08年には大分北部中核工業団地内に用地を購入していた。だが米田に端を発したリーマン・ショックの影響で工場建設を延期。その間、同団地に立地する取引先の東アスチック・エンジニアリングの大分工場内に大分営業所を開設。大分キャンマテリアル向けに部品供給してきた。今後九州の完成車メーカーの生産拡大に対応して、受注拡大を図る。



土屋製作大分工場

受注拡大に意欲

土屋製作は防錆塗料のカチオン電着塗装などを手がける。これまで日産自動車や、自動車部品メーカーに塗料部品を納入してきた。北部九州の自動車関連産業の集積に対応して新たな受注拡大と輸送コストの削減に向け、11年10月に立地、12年5月に大分工場が稼働した。

同工場には最大長さ1600mm×幅600mm×高さ1800mmに対応するラインがあり、エッジ付と厚膜対応型カチオン電着塗装ができるのが特徴。現在の稼働率は4割程度。従業員数は10人。今後顧客に近いメトリットを生かして営業体制を強化。稼働率をさらに引き上げて将来は30人体制を目指し、九州での事業拡大に積極的に取り組んでいる。



大分北部中核工業団地
立地企業連絡協議会会長
米濱 光郎氏

大分北部中核工業団地は09年4年、地域振興が一体となって企業誘致活動を進めてきた。同団地の分譲面積は約50畝。これまでに精密機器関連企業でTRI大分、自動車関連企業で東陽九州、ヒロテック(広島市佐伯区)、浅野自動車九州、九州ケミカル、北田金属工業所(奈良県生駒市)、サミットステール(大阪府東大阪市)、TRI九州(東海化成九州)、土屋製作(神奈川県厚木市)の9社、自動車関連と事務機器関連を手がける山宗(名古屋市中区)の計14社が進出した。

残り分譲面積は約7.5畝と販売は好調だ。好調な背景にはダイハツ九州(中津市)や大分キャンマテリアル(大分市)、大分キャンマテリアル(大分市)といった大手メーカーが30〜40分団内に多数立地し、地元自治体も積極的に立地企業を支援する好環境がある。

米濱会長は「取引先に近いので、ダイレクトにニーズを引き出しスピード感を持って対応できる」と強調する。

グローバル企業 14社が立地

自動車や精密機器関連企業などが活発な生産を行う大分県北地域。豊後高田市にある「大分北部中核工業団地」には「世界一の機能部品供給基地」を目指すグローバル企業が立地する。部品を供給する国内取引先が九州に生産をシフトする中、生き残りをかけて同団地を拠点に九州での事業拡大を目指して進出した。そこで立地企業の状況や今後の展開を、米濱光郎同団地立地企業連絡協議会会長のコメントを交えて紹介する。

07年に設立した大分北部中核工業団地立地企業連絡協議会の活動も活発だ。同協議会は同団地に立地する全企業が構成。大分県や豊後高田市の発展に向け、立地企業が協力して諸問題の解決を検討し、会員相互の親睦を図り、立地企業の発展と同団地の振興に取り組んでいる。

米濱会長は「技術力の高い企業が立地し、各企業とも成長している。良いメンバーに恵まれたおかげで活動への出席率も高く、日々のコミュニケーションも良好。一体感がある」と活動の活性化を歓迎する。

昨年からは「同協議会の活動として安全・防災をテーマに各企業の活動事例の共有」に取り組んでいる。

開発・量産拠点目指す

有に取組んでいる。各企業の交流を深め、レベルを高めつつ、これからは「米濱会長と考えている。現在、企業間の一部で取引が始まっている。聞く。将来は各企業の技術力を結集し、世界に向けてユニット部品の開発・量産拠点を目標としている。実現すれば世界一の機能部品供給基地を目指す同団地の付加価値がさらに高まり、従来の量産拠点から開発・量産拠点への転換を目指すことになるだろう。」

同団地を取り巻く環境は、今後ますますグローバル競争が激化し、顧客から求められる要求はさらに厳しくなる。こうした市場環境を捉え、各企業がともにコスト競争力に磨きをかけているのは心強い。この団地が存在するポテンシャルは極めて高い。ぜひ、ユニット部品開発に挑戦したい。」(同)と意気込みを交わす。取引関係が構築できれば、動きが速い。そのほか北九州から福岡市間で14年度に開通を予定する東九州自動車道にも期待する。



手前が大分北部中核工業団地、奥が豊後高田市街

州自動車道にも期待する(同)。単に物流面でのメリットに留まらず、今後の交流や観光面において地域社会活性化させる起爆剤となることを期待し、大分北部中核工業団地も地域経済を支える雇用創出の場として役割をしっかり担ってほしい」としている。

操業	会社	主要製品
99年 9月	株式会社TRI大分AE	事務機器用精密部品製造
00年 5月	株式会社協和製作所	アルミスリーブ製造
04年 1月	株式会社アスチックエンジニアリング	トナーケース製造
06年 2月	株式会社キャム	精密エンジン・ポンプ・スチックス部品製造
06年 10月	株式会社ヒロテック	ダイハツ用部品製造
07年 7月	株式会社東陽九州	自動車用プロペラシャフト部品製造
07年 12月	株式会社九州ケミカル	メッキ加工
08年 5月	株式会社浅野自動車九州	ダイハツ後車輪製造
08年 8月	サミットステール株式会社	鋼材およびその他加工
08年 12月	株式会社北田金属工業所	自動車部品プレス加工
08年 12月	株式会社東海化成九州	自動車内装部品製造
08年 12月	山宗株式会社	事務機器用自動車内装部品製造
(14年4月)	大分工場	
09年 1月	株式会社TRI九州	防護ゴム・樹脂ホース
12年 5月	株式会社土屋製作	カチオン電着塗装

(作成:日刊工業新聞社)

おお いた ほく ぶ

大分北部

県北最大の生産拠点

中核工業団地

所在地/大分県豊後高田市かなえ台

高台にある高品質なインフラ完備の工業団地!!

大好評5区画分譲中

特長

- 税制や補助金等の優遇制度が充実
- 緑化義務免除 (工場立地法に基づく特例団地)

概要

- 用水:上水道 270㎡/日 工業用水 3,000㎡/日 (予定)
- 排水:公共下水道完備
- 電力:特別高圧 66,000V

●中小企業基盤整備機構 九州本部 産業用地課 ☎(092) 263-0341

●大分県 企業立地推進課 ☎(097) 506-3246

●豊後高田市 商工観光課 ☎(0978) 22-3100